

令和6年度富山市大山歴史民俗資料館運営協議会議事概要

1. 日 時 令和6年7月25日（木） 午前10時から11時15分まで

2. 場 所 大山歴史民俗資料館 研修室

3. 出席者 委 員：久保委員、梅沢委員、山森委員、細田委員、深山委員

事務局：富山市教育行政センター横越所長（資料館館長）

富山市教育行政センター山口主幹

真田職員

4. 傍聴者 なし

5. 議 題

(1) 大山歴史民俗資料館の運営について

①事業概要について

②観覧者数の推移について

③入館者アンケート集計結果

(2) その他

6. 主な質疑・意見等

(委 員) 平成21年度に4千人以上の入館者があった時は、映画「劔岳 点の記」の公開もあり、宇治長次郎のブームとなっていた。入館者を増やすにはこのようなブームが必要ではないか。ブームを起こすための案として、資料館の名称変更が考えられる。「富山市大山歴史民俗資料館」の「大山」の意味が分からない人がいるし、「大山」をとって「富山市歴史民俗資料館」にすると広すぎる。例えば、「富山市銀山博物館」、「有峰歴史博物館」、「電源開発博物館」など、展示の内容と結びつく名称がよい。

常願寺川水系には28の発電所がある。ダムや発電所など、電源開発の施設を巡るインフラツアーを企画して、入館者の増加を図る方法もある。

- (事務局) 老朽化のため5月に解体された有峰記念館(北陸電力)に展示されていた電源開発に関する資料の一部をお借りし、現在、当資料館で展示している。さらに、北陸電力の見学会ルートに当資料館を加えることも検討してもらっている。
- (委員) 治水で苦しかった県財政を救ったのは電源開発であり、電源開発による企業誘致が富山県民の豊かな暮らしに結びついていることを多くの人に知ってもらうためにも電源開発の展示は必要である。
- (委員) 現在、BSで劔岳の番組が放送されていて、登山に興味をもった人もいるはず。低い山でもいいので、みんなで山に登る企画があれば楽しい。
- (委員) 常願寺川は最高の教材である。常願寺川の水は富山市民の生活を支えていることを子供たちに知ってもらいたい。横江頭首工や分木工など、いろいろな施設を実際に見て学んでほしいが、難しい面もある。そこで、写真や動画など、視覚的に分かりやすい教材を学校に提供してほしい。
- (委員) 昔、全国の中学校や高校で使用する地図帳の編集者、監修者が富山県出身だったことがある。常願寺川が天井川であることも教科書に明記され、富山県の地理の学習が充実していた。しかし、最近は地域の地理や歴史に関する意識が薄れてきている。子供たちに視覚的な学習をさせたり、地域に連れ出して体験させたりすることも必要だと思う。
- (委員) 地域に流れている川(用水)には発電所で使った水が流れ込んでいることを知らずに生活している人が多い。水力発電で使った水がどこを流れているのか知りたい。
- (事務局) 今年度は水力発電所、来年度は常西合口用水を取り上げる中で、水路マップ等を通して、水の流れ(利水)について紹介する予定である。
- (委員) 県庁に「県営水力発電事業ノ記」がある。富山県が水力発電によって発展したことを知らない人が多い。
- (委員) 神通川の流れも時代の中で変わってきたことを子供たちは知らない。防災の観点からも、河川の水害の歴史や先人の苦労を教えた方がよい。
- (委員) 富山市の博物館行政では旧富山市が中心になっていて、砂防や水防、河川の変遷などが話題として取り上げられることは少ない。例えば、佐々成政について文献をもとに紹介することが多いが、成政と水防について現地

(大山地域の堤防) に行って調べることは少ない。富山市の郷土史において、旧富山市以外の地域の歴史を切り捨ててはならない。

(委員) 資料館職員は、草刈り等の環境整備を含め業務が多岐にわたる。そこで、資料館ボランティアグループを結成して、銀山や電源開発のセミナーを定期的に開催したり、地域を案内したりするのがよい。

(委員) 電源開発については、今後も北陸電力との連携を強化して、この資料館が「北陸電力の資料館」と言われるくらいの情報を発信できればよい。

(委員) 常願寺川の水が分土工で右岸、左岸に均等に分けられ、地域の米づくりを支えている。水は人間の体にも大切であり、子供たちに「地域の水」についてもっと学んでほしい。

(委員) その地域で生まれ育った人よりも、他地域や県外出身の人が興味をもってその地域の歴史を調べたり、地域おこしの協力隊に積極的に参加したりすることがある。地域の人が自分の地域のことを知ることが大切である。

(委員) 小見小学校の前にある本宮砂防堰堤の見学に訪れるのは右岸側の立山町の小学校が多い。水力発電や砂防施設を組み合わせた見学ルートがあれば、大山地域を含め、富山市の小学生が学びやすくなるかもしれない。

(館長) 市内の小学生が学校やPTAの行事として立山登山をすることがある。薬師岳には中学生(希望者)が美化活動の一環として登っている。小学生が地域の山である薬師岳に登る機会はあるか。

(委員) 昔、越中では成人への通過儀礼として立山に登る慣習があり、それが小学生の立山登山につながっている。薬師岳にはそのような慣習はなく、子供たちが登る山になっていない。また、小学生の体力を考えると薬師岳登山は厳しい面もある。

(館長) 薬師岳は北アルプスを代表する山の一つであり、山好きな人が立ち寄れる資料館という面もあればよい。

(委員) 有峰村の歴史の中で薬師岳を紹介している展示コーナーはある。登山者向けの展示にするには、歴史だけではなく、薬師岳の自然や魅力等についても大いに紹介しなければならない。

(委員) 市交通政策課に相談し、コミュニティバスを白樺の湯まで延長してもらった。入浴と資料館見学をセットにしてコミュニティバスを利用してもら

えばよい。

- (委員) コミュニティバスのルートを知らない人もいる。車の運転ができないお年寄りにコミュニティバスで白樺の湯と資料館に行けることを広報とやまや地域の回覧で知らせたらよい。

総括

- (館長) 数年前に有峰記念館を訪れたことがある。「災いの水」を「恵みの水」に変えた水力発電が日本海側有数の工業県になった富山県の礎であることに感銘を受けた。その記念館の展示物を当資料館で展示することになり、電源開発に関わる資料を大切にしなければならないと思っている。

資料館を活性化させるために特徴のある名称と特徴のある展示にしておくことも大事かもしれない。

夏山シーズンが始まった。薬師岳は折立の駐車場が満車、バスも満席になるくらい知名度の高い山である。薬師岳の登山者がぜひ帰りに寄ってきたいと思える資料館になればよい。

皆様からいただいた貴重なご意見を持ち帰り、機会をとらえて調整等を図りたい。